



# みんなで探して 発見！ 身近な自然



いつもいきもの情報をありがとうございます。  
いただいた情報は、貴重な記録として集計し、  
目黒区いきもの住民台帳としてまとめられています。昨年、みなさんが発見したいいきものや自然情報の概要をご紹介します！みなさんはどんな発見をしましたか？  
ふりかえってみましょう！

今回はどんな発見があったかな？



区民による身近な生物調査ロゴマーク

## いきもの住民会議 2020 報告



水辺の断面図を見ながら、水辺はどんなところか、どんないきものが暮らしているのか学びました。

2020年の気象台調査のテーマ種は「水辺のいきもの」でした。昨年9月13日（日）に林試の森公園にて、『かくれんぼ上手な水辺のいきものを探そう！』を実施しました。水辺のいきもの探しのコツやいきもの同定\*方法を学び、生物多様性には多様な水辺環境が重要であることを知ることができました。\*同定：種名を調べ特定すること



網の使い方にもコツがあります。実践しながら、上手に使えるようになりました。



公園内の流れのある池で、いきもの探しを行いました。水の中を歩くと泥が舞い上がり水が濁る中、いきものがいそうな岩や草陰を網で探ったり、大きなクサガメは素手で捕獲！

### 【調査結果】

調査時間は約30分ほどで、222個体のいきものを捕獲することができました。水辺にやってくるトンボも捕獲することができ、水中に生息するいきものだけでなく、水辺を利用するいきものも確認できました。

分類	種名	個体数
甲殻類	アメリカザリガニ	64
	カワリヌマエビ属の仲間	89
魚類	カダヤシ	50
	モツゴ	13
	ヒメダカ	1
貝類	カワニナ	3
爬虫類	クサガメ	1
昆虫類	コノシメトンボ（成虫）	1
合計		222

## いきもの情報集計結果

2020年は「水辺のいきもの」をテーマに身の回りのいきもの情報を募集しました。結果の概要をお伝えします。

### 水辺のいきもの、見つけたよ！ 2020年1月から12月末まで

分類	種数	報告件数
トンボ類	13	102
水生昆虫類	5	6
水鳥類	16	242
魚類	10	48
両生類・爬虫類	12	68
甲殻類	2	15
貝類	4	9
水草類（植物）	12	17
合計	74	507

### トンボ類



#### シオカラトンボ（トンボ科）

トンボ類の中で報告件数が最も多かったです。成熟したオスとメスは体色が異なり、雌雄が見分けやすい種です。飛びながら、カやチョウなどの昆虫を捕まえて食べます。



#### トンボの交尾

オスはメスに直接精子を渡すわけではなく、交尾前に腹部末端の生殖口から副性器に精子を移します。その後、オスがメスをつかまえて、メスは腹部を前方へ折り曲げ、生殖口のある腹部末端をオスの副性器にくっつけて交尾をします。交尾の姿がハート形なのも特徴的です。

### 水鳥類



#### カルガモ（カモ科）

主に水草など植物の葉や種子を食べます。水辺周辺に枯草や枯葉で皿状の巣を作り、10～14個の卵を産み、子育てをします。



水生植物の多い池や沼、田んぼでよく見られます。よく似ている種にアオモンイトトンボがいます。腹部の水色の部分で見分けます。



### アジアイトトンボ (イトトンボ科)

3cm 程のか弱いイトトンボが弁天池周辺の花壇の草に止まっていた。 (碑文谷 6 丁目通信員)



成熟すると、オスは全身、脚まで真っ赤になります。メスは赤くならず黄褐色です。

### ショウジョウトンボ (トンボ科)

近くに池や川はなく、どこから飛んできたのやら? (三田 2 丁目自然通信員)

金色の毛が胸部と腹部各節の後縁にびっしりと生えているのが特徴で、全国でよく見られます。

変温動物のカナヘビは日光浴することで、体温を上げています。午前中に手足をだらつとして日光浴する姿がよく見られます。



### カナヘビ (カナヘビ科)

この公園 (碑文谷公園) では初見です。 (碑文谷 6 丁目自然通信員)

## 2020 みんなの発見

昨年は 12 月 31 日までに 1740 件の情報が寄せられました。もっとも多かったのは鳥類で、4 種 806 件でした。



### キンケハラナガツチバチ (ツチバチ科)

何バチでしょうか? 大きいけど、危険な感じはあまりなかったです。

(鷹番 3 丁目自然通信員)



開けた水場を好み、田んぼや池だけでなく、水たまりでも見られます。

### ハイロゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)

自宅自転車カバーの雨水が溜まったところに泳いでいました。 (碑文谷 6 丁目自然通信員)



### カワセミ (カワセミ科)

7 月 28 日、菅刈公園和館近くで目撃。 (青葉台 2 丁目通信員)

鮮やかな水色の体と長いくちばしの特徴。この個体はくちばしが黒いのでオスです。メスは下のくちばしが口紅を塗ったみたいに赤いです。



### ウミネコ (カモメ科)

9 月 17 日、目黒川船入場で目撃。 (中目黒 1 丁目自然通信員)

日本全国の沿岸部や河口、干潟などで見られます。「ミャーオミャーオ」というネコみみたいな鳴き声が名前の由来です。

## クビアカツヤカミキリにご注意!!

### なぜ注意が必要?

サクラ、ウメなど主にバラ科の樹木に寄生して内部を食べ弱らせたり、枯らす被害がでており、特定外来生物に指定されています。区内の被害報告はありませんが、都内では被害が出ています。

※特定外来生物は、生きたまま持ち帰ること・飼育することなどは法律で禁止されています。

### どんな生態?

幼虫は樹木の内部で 2 ~ 3 年かけて成長します。寄生された樹木には、侵入した穴から大量の木くずとフンが排出されます。成虫は 6 月ごろに樹木の外に現れます。

### 見つけたら...

成虫を見つけた! また、大量の木くずやフンが山のようになっている! このようなときは、被害拡大防止のため情報をお寄せください。



# 学校ビオトープ調査結果

区内には、河川とそれ以外にも公園の池や学校・一般家庭内にあるビオトープなど大小様々な水辺環境があります。このうち小学校2校のビオトープで生物調査を実施しました。その結果をご報告します。

## 緑ヶ丘小ビオトープ

7月5日調査実施



池内とその周辺に植物が多く、それらを利用して、トンボ類が産卵し、多くのヤゴが生息していると思われます。



ヤゴの抜け殻

この結果を通して、身近ないきものについて理解を深め、いきもの集まる環境について考えてみましょう。

## こんないきものがみられたよ!

種名	緑ヶ丘小			五本木小	
	成体	ヤゴ	抜け殻	成体	幼生・ヤゴ
1 ナミアゲハ	1			1	
2 クロアゲハ				1	
3 アオスジアゲハ	1				
4 モンキチョウ	1				
5 ツマグロヒョウモン	1				
6 ヒメジャノメ				1	
7 ヤマトシジミ	2				
8 ショウジョウトンボ	5	1	2		
9 オオシオカラトンボ	2	1			
10 ギンヤンマ				1	
11 クロスジギンヤンマ	5				4
12 ルリボシヤンマ				2	
13 モノサシトンボ	1	2	2		1
14 モノアラガイ類	11				
15 カワリヌマエビ属	103				
16 ヒメダカ	7				
17 ヒキガエル					1000以下
18 ドジョウ				1	
19 シジミ				2	
20 サカマキガイ				2	
21 ミズムシの一種				3	
合計		151			16

## 五本木小ビオトープ

5月14日調査実施



池周辺の樹木が成長し、池上空を覆う面積が広がってきており、生物が入りにくくなっていると思われます。また、周辺の草本類はイネ科などバッタ類の好む草本が少ない可能性があります。多様な生物が集まるビオトープにするには、定期的な植栽管理など水辺環境を整えることも大切です。

# 歩もう 野の鳥の歌が聞こえるまち 計画紹介その13

身近な自然を守り、いきものたちと共に暮らせるまちを未来に伝えていくため平成26年3月から推進している『ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画（目黒区生物多様性地域戦略）』のポイントを紹介します。

## 「めぐろの森」の取り組み

区内で特に優れた自然環境を有する公園や大学など持続性の高い緑地を含んでいるエリア（森）を8つ設定しており、地域や関係機関等が連携・協働することで自然環境の保全・創出に取り組みます。そのうちの1か所を紹介します。

### 中目黒の森

中目黒公園、防衛省防衛研究所一帯

- ・中目黒公園のクヌギ、コナラを主とする雑木林は、地域の環境学習の一環として萌芽更新を行い、里山の環境を維持していきます。また、落ち葉や剪定枝は土に還元し、野菜づくりなどに活用します。
- ・トノサマバッタが見られる中目黒公園の草地は、日影をつくる高木等の植栽は避け、チガヤやススキ等の草地を維持します。草地は区域を分け、草丈に変化をつけながら定期的に草刈りを行います。
- ・目黒川と近距離にある中目黒公園のいきもの池は、トンボや水鳥、ヒキガエル等の産卵池として保全育成を図ります。
- ・花とみどりの学習館を活動拠点として、季節の花を育成し、植物に集まるいきもの等について、メディアボード（説明型表示板）を活用した解説などの啓発を行います。

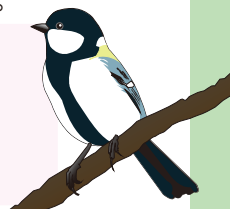
## 「めぐろの森」に絶滅危惧種がいる!?

区内で優れた自然環境を有する「めぐろの森」では、1997～2013年に絶滅のおそれのある野生生物“絶滅危惧種”が確認されています。

「めぐろの森」全体では、環境省と東京都がつくっているレッドリスト（絶滅の危険性が高い動植物の名前を掲載したリスト）にあがっている生物のうち、53種が確認されています。このうち、最もランクの高いものは、環境省のレッドリストで絶滅危惧IB類にランクづけされているツチグリ（菌類）で、駒場野の森と下目黒不動の森で確認されています。

今回紹介した「中目黒の森」では、オオタカ（鳥類）やニホントカゲ（爬虫類）など18種が確認されています。中でも、イソシギ（鳥類）とショウリョウバッタモドキ（昆虫）は、区内で唯一「中目黒の森」で確認されている絶滅危惧種です。

動植物の絶滅が続くと、生物多様性も失われてしまいます。絶滅危惧種の命をつなぎ続けるためにも、「めぐろの森」の取り組みは大切です。ぜひ、「めぐろの森」でいきものにふれあい親しんでください。



## 桜の開花情報募集!

この時期になると、「いつ咲くかな?」と桜の木を見ている方も多いのではないでしょうか?桜が開花したらご一報ください。昨年は、3月11日が最初の記録でした。その他、ウグイスの初鳴き、ツバメ・蝶類の初見日、タヌキなどの観察情報を募集しています!みどり土木政策課みどりの係までメール・FAX・電話でお知らせください。  
●お知らせいただく項目  
観察者(氏名・住所)、いつ、どこで、なにを見た、様子・メッセージ

2021年3月8日発行

目黒区みどり土木政策課みどりの係  
〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15  
TEL: 03-5722-9355  
FAX: 03-3792-2112  
メール: sizen@city.meguro.tokyo.jp  
【作成】(株)自然教育研究センター